

2022 年度

通常総会議事資料

<2022 年 6 月 12 日>

<議 事>

- |   |      |  |
|---|------|--|
| 1 | 日 時  | 2022 年 6 月 12 日 (日) 14:30~17:00  |
| 2 | 会 場  | 国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)   |
| 3 | 付議事項 | 第一号議案 2021 年度事業報告並びに決算及び監査報告について<br>第二号議案 2022 年度事業計画並びに予算について<br>第三号議案 2022 年度役員の選任について |

特定非営利活動法人  
日本ファシリテーション協会

## 2021年度事業報告

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、“新たな日常”での試みが数多くありました。オンラインによる活動を進化・深化させ、つながりを創造し、多くのチャレンジと成果を生み出しました。また、状況を勘案しながら、感染対策を講じて対面による活動を行い、新たな知見を得ることとなりました。

設立20周年を次々年度（2023年度）に控え、FAJの存在意義や私たちファシリテーターは何ができるのかを考え始める一年となりました。

**調査・研究事業：** 定例会、例会等において、感染状況を鑑みながらFAJ内外のファシリテーターとの研鑽の場づくりを行いました。前年度に引き続き、オンラインを活用し、地理的・時間的制約を超えて探究の場を拡げました。

**教育・普及事業：** コロナ禍で開催が制限される中、ファシリテーション基礎講座(コロナ版)を実施しました。加えて、基礎講座(オンライン開催)を事業化しました。

**支援・助言事業：** 社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、ファシリテーションを活用した支援を行いました。教育分野に注力した支援に関する検討を始めました。

**交流・親睦事業：** コロナ禍においても、地域イベントの開催、海外のファシリテーションの知見提供等を通じて、国内各地域や国境・文化を越えた交流を深めました。

**広報・コミュニケーション活動：** 外部への発信強化に着手し、将来の会員や支援先、協働パートナーを見据えた広報を展開しました。また、会員相互の知見や実践事例の共有を通じて内部コミュニケーションの充実を図りました。

**ミッションおよび組織運営に関わる活動：** オンラインでのコミュニケーションを促進するため対話と議論を重ねながら、持続可能な組織運営を考えることで、あり方とやり方を検討しました。

以下、事業計画に沿って、事業の概要を報告します（括弧内は担当組織を表します）。

### 1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

#### 1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- 2021年度においても引き続きコロナ禍の中にありながら、感染状況を鑑み、各拠点において、オンラインやハイブリッド、また、対面の形も織り交ぜ、定例会・例会を開催しました。
- オンライン定例会・例会の実施について、企画チームや参加者等、支部・地域・団体等を越えてコラボレーションし、ファシリテーションについて探求する場を拡げました。

#### 2) ファシリテーションの本質を研究(理事会、イベント実行委員会)

- 全国イベントの新たな形として「頂点にいる人、頂点を目指す人が集まる場」をイメージした「ファシリテーション・サミット」を開始、第一弾をオンライン開催し400人以上が参加しました。当日の参加者によって、この後1年で大切にしたいこととしてサミット宣言を採択しました。

### 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

#### 1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- コロナ禍でも開催可能なプログラム(コロナ感染症対策版)を4会場6クラス開催しました。またアフターミーティングを1回実施しました。
- ファシリテーション基礎講座(オンライン開催)を今年度初めて、4会場5クラスで開催しました。
- 講師トライアルの要件を緩和し、公開セミナー委員、アソシエイト以外の方に対して門戸を開き、実際にアソシエイト以外の方の挑戦がありました。

## 2) 公開セミナーの新たな展開の検討(理事会、公開セミナー委員会)

- ファシリテーション基礎講座(オンライン開催)については、セミナー委員会で運営可能なことが確認できたため、さらなる開催数増に向けた運営体制を検討しました。
- 引き続き、ファシリテーション実践講座(仮)については、コロナ収束後いつでも事業化できる状態にしています。

## 3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

### 1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- 今年度は外部からの問い合わせは43件ありました。よろず相談(丁寧なヒアリング)を行い、支援の実施件数は18件となりました。新型コロナの影響でオンライン形式が多いものの、対面形式での実施案件も徐々に増えてきました。
- 支部・委員会と連携した取り組みを行いました。支部の定例会にファシサポ事例に基づいたプログラムを提供したり、広報やニーズ分析等得意分野を持つ多様な会員に加わっていただき、新たな支援のあり方を模索しました。
- FAJ内への情報発信に取り組みました。ファシリテーション・サミットでのポスターセッションへの出展や会員向けに報告会を開催しました。またニューズレターに活動の取組みを掲載しました。一方で、FAJ外への発信については、十分な取り組みができませんでした。

### 2) 災害復興・防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 熱海伊豆山土石流災害では、避難所や熱海市や社協、ささえ逢いセンター、地元NPO等の情報共有や話し合いの場を支援し効果的な被災者・復興支援に尽力しました。
- 話し合う力養成講座の実施にあたり、プログラム開発を行い、共通コンテンツを整えました。講座実施等では、人材の育成・学び合いをFAJ会員・一般の方と共に進めました。
- JVOAD主催のフォーラムでは過去の支援先と連携し企画を実施しました。また、緊急の板書ボランティア養成講座を実施したり、内閣府の三者連携の研修会においてはワークショップを担当し、防災・減災・被災地支援に役立つ活動を実施しました。
- 災害支援や防災に関わる方々のコミュニティを作り、継続的に交流、情報交換を行いました。

## 4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

### 1) 地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)

- 東北支部及び九州支部において地域イベントを開催し、FAJ内外の交流を促進できました(中国支部は延期)。昨年度に引き続き、コロナ禍の影響等によりイベント開催を見送る支部もありました。

### 2) 国境や文化・言語を越えてつなげる活動強化(理事会、グローバルファシリテーション推進委員会)

- IAFストックホルム大会へのFAJ会員派遣を計画していましたが、昨年度に続いて世界的なコロナ禍の影響により、大会は中止となりました。海外ファシリテーターとの交流を、オンラインにより継続実施しました。
- 「科学技術の社会実装」や「ちゃんぽん英語でファシリテーション」をテーマに各支部の定例会等を実施し、グローバルファシリテーションの知見を提供しました。

### 3) 他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会、事務局)

- IAF日本支部とのコラボ企画としてオンラインの世界・カフェを定期的に開催し、多数の国内外参加者と交流を深めました。
- 外部団体のイベントに、運営面やファシリテーターの役割として協力する等の取り組みを行いました。
- 2025年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーに登録しました。TEAM EXPOオンラインブレスト交流会の開催に協力しました。

## 5 広報・コミュニケーション活動

### 1) 広報優先順位の策定と発信の強化(理事会、広報委員会)

- 公式サイトトップページを改訂し、アクセスしやすい構造としました。オンライン定例会一覧ページを作成し、地域を跨いでオンライン定例会を周知しやすくする仕組みを作りました。新たなコンテンツとしてYouTubeの動画を10本アップしました。
- FAJ内部には、ニューズレターのリニューアルを行いました。自分たちの問題意識に基づいて広く関心を持ってもらえる記事を選択し、積極的な情報発信を行いました。外部に向けては、ホームページのアクセス等を分析し、直帰率(全体の訪問のうち何%が1ページしか見なかったかの割合)を改善しました。

## 2) FAJ活動を内外に発信する広報活動の実施(広報委員会)

- ニュースレターで各委員会活動を積極的に紹介しました(災害復興委員会、公開セミナー委員会、ファシリテーションサポート委員会)ニュースレターのデザインを刷新しました。特にデザイン、記事内容には取材に重点をおき、生の声を記事に反映しました。
- アクセスの解析等から公式ホームページデザインの更新を行いました。定期的にコンテンツの更新を進めました。閲覧不可となっていたニュースレターバックナンバーを閲覧できる状態に復旧しました。
- 作成したLINEスタンプをテーマとした定例会を2回開催しました。

## 3) 会員間コミュニケーションの促進(広報委員会)

- 会員間のコミュニケーションを促進するために、情報発信だけでなく広報委員会として読書イベントや書き方ワークショップ等の開催を検討しました。

## 6 ミッションおよび組織運営に関わる活動

### 1) 組織のあり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

- 理事会を各支部の定例会に併せて開催し、運営の現場との意見交換を実施しました。また、FAJの原点及びこれからのFAJに関する方向性を、2回の拡大理事会の中で各拠点と議論しました。
- 2019年台風19号の支援活動において中央共同募金会より1,090千円の助成を受けました。
- 各支部の次世代を担うメンバーで構成するビジョン検討チームを中心に、5回のビジョンワークショップを実施し、延べ87名の会員が参加しました。ツアー参加者がFAJについて語り合ったことを基に20個以上の新しいビジョンの種「Whyステートメント」を作成しました。次年度の、ビジョン作成に向けての活動計画を立案しました。
- 「協働促進プログラム準備室」メンバーを募り、現在のFAJ会員の状況を確認するアンケートを実施しました。また、協働促進プログラムに関する意見収集を狙いとして支部で話題提供を実施しました。

### 2) 運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)

- オンラインを用いて拠点運営に関する情報共有を促進しました。
- 会計業務と会員管理について外注し、円滑な業務遂行のために会計業務説明会の開催と、継続的な業務改善を行いました。
- 会員数、事業収入が減少した場合の、活動の継続可能性について議論を行いました。その結果、新たな資金調達方法ではなく、収支構造を検討する必要があるという結論に至りました。
- 今年度の拡大理事会ではサロンからの参加もありました。
- 各拠点に留まらず会員が活動しやすい環境の促進を目指し、Summer Schoolを実施しました。

### 3) 拠点運営のサポートの充実(デジタル推進委員会)

- 外注化検討のためにG-suite運用整理を実施しました。
- 各拠点の活動の活性化を図るためのデジタル領域の運用支援を実施しました。

### 4) 各種制度改正への対応(理事会、事務局)

- 制度改正への対応はありませんでした。

# I 特定非営利活動に係る事業

## 1. 調査・研究事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
北海道支部 定例会	4月3日	北海道札幌市 札幌エルプラザ	3	13	1
	5月8日	オンライン	3	17	2
	6月5日	オンライン	3	11	0
	7月3日	北海道札幌市 道特会館	2	9	1
	7月21日	オンライン	3	5	0
	8月7日	中止	0	0	0
	9月4日	オンライン	3	17	3
	10月2日	オンライン	6	10	0
	11月6日	北海道札幌市 札幌市産業振興センターおよびオンライン	4	22	0
	11月17日	オンライン	1	7	0
	12月4日	北海道札幌市 札幌市産業振興センター	2	7	1
	1月8日	北海道札幌市 札幌市産業振興センター	2	10	0
	2月5日	オンライン	2	13	1
	3月5日	オンライン	2	20	1
	受益対象者延べ人数				
「学びは楽しく」をテーマの活動で、2021年度の定例会は「リアル開催4回、オンライン開催7回、ハイブリット開催1回、コロナ禍で中止1回」と運営していく場としては、学びが深く他支部及び運営委員の連携が強い活動でありました。					
東北支部 定例会	4月25日	中止	0	0	0
	5月8日	オンライン	5	35	0
	6月19日	オンライン	4	9	0
	7月3日	オンライン	4	11	0
	8月7日	オンライン	3	20	0
	9月4日	オンライン	5	16	0
	10月9日	宮城県仙台市 エル・パーク仙台	4	9	8
	11月6日	オンライン	4	11	0
	12月4日	宮城県仙台市 エル・ソーラ仙台	4	6	3
	1月8日	オンライン	4	17	3
	2月5日	オンライン	4	14	1
	(3月)	開催なし	0	0	0
受益対象者延べ人数					163
次開催に繋がるテーマでの定例会を開催し、より深められる調査・研究事業ができた。2年ぶりに支部イベントを開催し、その半数以上が非会員であり、今後の活動における方向性のヒントが見つけられた。					
東京支部 定例会	4月17日	オンライン	7	113	10
	5月23日	オンライン(5月22日、23日 開催)	17	50	14
	6月26日	オンライン	4	56	6
	7月24日	オンライン	16	56	10
	8月28日	オンライン	6	34	5
	9月25日	オンライン	18	45	3
	10月23日	オンライン	8	63	4
	11月27日	オンライン	14	40	4
	12月25日	オンライン(12月18日、25日 開催)	9	38	3
	1月23日	オンライン(1月15日、22日、23日 開催)	31	56	5
	2月26日	オンライン	7	54	13
	3月26日	オンライン(3月6日、26日 開催)	12	54	10
	受益対象者延べ人数				
2020年度から参加者は大きく減少した。オンライン疲れなどが要因の一つではないかと推測しているが、今後検討していく。一方、定例会での外部発信と自己研鑽の明確化は、オンライン中心の現状にはあっていたと思う。					

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
中部支部 定例会	4月18日	オンライン(4月17日、18日 開催)	7	30	0
	5月30日	オンライン(5月15日、30日 開催)	8	37	5
	6月27日	オンライン(6月19日、27日 開催)	10	20	1
	7月18日	オンライン(7月17日、18日 開催)	7	49	3
	8月29日	オンライン(8月21日、29日 開催)	9	41	0
	9月19日	オンライン(9月18日、19日 開催)	6	38	2
	10月31日	オンライン(10月16日、31日 開催)	7	45	3
	11月21日	愛知県名古屋市 イールーム名古屋駅前Aおよびオンライン(11月20日、21日 開催)	8	24	1
	12月19日	オンライン(12月18日、19日 開催)	6	45	0
	1月29日	オンライン(1月16日、29日 開催)	9	30	1
	2月20日	オンライン(2月12日、19日、20日 開催)	18	52	5
	3月20日	オンライン(3月19日、20日 開催)	7	47	2
	受益対象者延べ人数				
<p>ファシリテーション・サミットOSAKA2021のサミット宣言を受けて、「姿の见えない「ヘダタリ」と「オキザリ」の中で、私たちファシリテーターは何をつなぎ、どんな化学反応が起こせそうか？」をテーマにして、2022年1&amp;2月赤テーマスペシャル定例会(イベント型)を短時間(2時間)でのシリーズ開催(全4回)という試みで開催し、好評を得ました。ただ、この姿の见えない「ヘダタリ」と「オキザリ」は、中部支部運営委員会の中でも存在していることが2021年度末に明るみになりました。</p>					
関西支部 定例会	4月25日	オンライン(4月10日、25日 開催)	8	54	1
	5月8日	オンライン(5月3日、8日 開催)	6	23	0
	(6月)	開催なし	0	0	0
	7月10日	オンライン	8	19	1
	8月14日	兵庫県西宮市 西宮市民会館およびオンライン(8月7日、14日 開催)	13	58	0
	9月10日	オンライン	4	17	3
	10月22日	オンライン(10月9日、15日、22日 開催)	15	41	0
	11月13日	兵庫県西宮市 西宮市民会館およびオンライン	11	41	5
	12月26日	兵庫県西宮市 芦屋市民センター・西宮市民会館およびオンライン(12月3日、5日、11日、25日、26日 開催)	15	43	3
	1月30日	兵庫県西宮市 西宮市民会館およびオンライン(1月8日、30日 開催)	12	32	14
	2月12日	兵庫県西宮市 西宮市民会館およびオンライン(2月5日、12日 開催)	16	37	2
	3月12日	オンライン	7	39	0
	受益対象者延べ人数				
<p>「核心×革新」の方針のもとマインド・実践スキルを探究。シリーズテーマ(プロマネなど)、外部団体との3者コラボ、ハイブリッド開催などの新たなチャレンジ、2年ぶりの関西支部合宿など、バラエティに富んだ探究の場をつくりあげることができた。</p>					
中国支部 定例会	4月17日	オンライン	3	9	0
	5月23日	オンライン	3	20	2
	(6月)	開催なし	0	0	0
	7月11日	オンライン	4	26	4
	8月21日	オンライン	4	21	0
	9月19日	オンライン	5	25	0
	10月16日	オンライン	4	25	0
	11月21日	オンライン	3	13	0
	(12月)	開催なし	0	0	0
	1月29日	オンライン	6	22	0
	2月26日	オンライン	6	8	0
	3月12日	オンライン	4	8	0
	受益対象者延べ人数				
<p>「シフクのオンライン」を活動テーマとし、全定例会をオンラインで実施。ガチンコ企画会議ファシリテーターを全国MLで募集、録画&amp;再生による振り返り、午前のみ開催の早朝定例会など新しいスタイルに挑戦した。</p>					

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
九州支部 定例会	4月3日	オンライン	5	22	1
	5月8日	オンライン	3	11	3
	6月5日	オンライン	3	22	1
	7月3日	オンライン	5	12	2
	8月7日	オンライン	5	10	0
	9月4日	オンライン	5	15	2
	10月2日	オンライン	4	20	2
	11月13日	オンライン	3	20	2
	12月4日	オンライン	13	15	0
	1月8日	オンライン	6	18	0
	(2月)	開催なし	0	0	0
	(3月)	開催なし	0	0	0
	受益対象者延べ人数				
運営委員・アソシエイツ27人体制という勢いに乗り、これまでできなかった定例会2テーマ開催や、九州内サロンなどの拠点と協力して支部イベントを開催することができた。					
ファシリテーション サミット	6月12日・13日	大阪私学会館 会議室	11	344	72
	受益対象者延べ人数				
サロンサポート	—	地域型12か所(秋田・群馬・埼玉・新潟・富山・和歌山・岡山・四国・佐賀・熊本・長崎・沖縄)、テーマ型5か所(ビジネスファシリテーション実践・TOC×Facilitation、オンライン・ファシリテーション研究、行動科学ファシリテーション研究、教育工学ファシリテーション研究)	—	—	—
			受益対象者延べ人数		

## 2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
公開セミナー	6月26日	大阪府大阪市 ドーンセンター	5	7	12
	8月28日	オンライン	7	13	5
	10月16日	京都市南区 京都テレサ 東館	5	2	5
	11月3日	オンライン	6	8	11
	11月20日	東京都台東区 東京文具共和会館	9	6	33
	12月26日	オンライン	5	10	10
	1月15日	東京都台東区 東京文具共和会館	9	4	23
	1月23日	オンライン	12	3	19
	3月19日	東京都台東区 東京文具共和会館	5	3	16
	受益対象者延べ人数				
アフター ミーティング	2月19日	オンライン	4	4	11
	受益対象者延べ人数				

### 3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所・実施内容	従業者数	受益対象者数		
				会員	一般	
ファシリテーション サポート プログラム	5月16日	[オンライン]企業労働組合 ファシリテーションスキル研修	2	0	9	
	6月23日	神奈川県相模原市 公民館職員 ファシリテーション研修	2	0	30	
	6月14日ほか計2回	北海道長沼市 公立高校 高校生向けファシリテーション授業	2	0	166	
	6月24日	東京都練馬区 行政 ファシリテーション演習	1	0	28	
	7月1日	[オンライン]県立図書館 生涯学習支援者向けファシリテーション研修	5	0	25	
	7月11日	[オンライン]私立大学ボランティア支援センター 大学生向けアイスブレイク研修	5	0	17	
	7月30日	[オンライン]日本バリューエンジニアリング協会 ファシリテーション研修	3	0	9	
	8月19日	東京都北区 公立高校 高校生向けファシリテーション演習	2	0	15	
	8月23日ほか計2回	[オンライン]行政 ファシリテーター養成研修	14	0	137	
	8月23日	[オンライン]行政 ファシリテーション研修	2	0	32	
	9月29日ほか計8回	群馬県高崎市 公立大学ファシリテーション演習 対面授業	20	0	141	
	10月16日ほか計3回	[オンライン]民間企業 学生向けワークショップファシリテーター	7	0	144	
	11月9日ほか計2回	[オンライン]企業労働組合 ファシリテーション研修	3	0	23	
	12月10日	北海道札幌市 人事院北海道事務局 ファシリテーション研修	2	0	43	
	12月22日	新潟県阿賀野市 行政 ファシリテーション研修	1	0	15	
	3月1日	[オンライン]社会福祉協議会 職員向けファシリテーション研修	2	0	16	
	3月7日	大阪府吹田市 私立大学ボランティアセンター ファシリテーション研修	2	0	22	
	3月22日ほか計2回	東京都小金井市 行政 介護支援専門員向けファシリテーション研修	2	0	28	
					受益対象者延べ人数	900
	災害復興委員会	5月27日	[オンライン]JVOAD全国フォーラム分科会	3	2	60
6月13日		[オンライン]ファシリテーション・サミット2021	7	15	0	
6月14日		Voice from 3.11実行委員会ワークショップ	2	0	20	
7月7日他1日		静岡県熱海市 住民の対話 寄り添い・共有	5	0	28	
7月7日他2日		静岡県熱海市 熱海市避難所役員会	3	0	32	
7月21日		静岡県熱海市 伊豆山民児協勉強会	1	0	25	
7月24日		熱海市災害支援	2	0	7	
7月27日		[オンライン]いわて連携復興センター研修	3	0	30	
8月12日		静岡県富士市 富士市災害ボラセンふりかえり	1	0	9	
8月22日		[オンライン]オンライン記録ボランティア養成講座	5	30	0	
8月23日他1日		静岡県熱海市 避難所女性対象情報交換会	3	0	67	
9月6日他12日		静岡県熱海市 生活再建のための被災者情報共有会議	39	0	159	
9月6日他13日		静岡県熱海市 伊豆山ささえ逢いセンター事業打ち合わせ	40	0	135	
10月20日		[オンライン]静岡DWAT派遣振り返りの会	5	0	28	
12月13日他5日		[オンライン]話し合ううちから養成講座	29	21	41	
1月24日ほか5日		[オンライン]千葉県、徳島県、奈良県 内閣府 「多様な主体間における連携促進のための研修会」	16	0	309	
3月15日		愛知県情報共有会議	2	0	130	
3月23日		熱海伊豆山 住民の対話 寄り添い・共有	2	0	8	
				受益対象者延べ人数	1,156	

#### 4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所・実施内容	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
グローバルファシリテーション推進委員会	7月23日	Global Facilitators' Virtual Cafe #23			
	8月16日	The Facilitation Summit 2021			
	8月21日	はこだて国際科学祭2021 ワークショップ「想像&創造してみよう！自動運転のある生活・社会」 ～「SFプロトタイピング」手法を使って～			
	9月24日	Global Facilitators' Virtual Cafe #24			
			受益対象者延べ人数 0		
地域イベント	2月27日	九州支部 オンライン	18	32	29
	3月6日	東北支部 宮城県仙台市 日立システムズホール	11	6	30
			受益対象者延べ人数 97		
共催・後援等イベント	7月7日	第二回吉田晴乃記念： ～つながって創る「私たちの新しい成長のカタチ」～(オンライン)	5		137
	3月6日	港区立男女平等参画センター(リーブラ)2階 学習室B ワークショップ 『親と子供のコミュニケーション～非言語で伝えている子供の気持ち～』 (男女平等参画フェスタ in リーブラ 2021)			
			受益対象者延べ人数 137		

#### 5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
ニュースレター	年2回	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		約1300	-
ウェブサイト	随時	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		不特定多数	
メーリングリスト SNS	随時	東京都渋谷区 FAJ東京事務所、他全国		約1300	-

#### 6. 理事会

事業内容	実施日時	実施場所	従業者数	受益対象者数	
				会員	一般
通常総会	6月13日	各所オンラインにて実施	135	-	-
理事会	4月18日	東京事務所および各所オンラインにて実施	13	-	-
	5月16日	各所オンラインにて実施	14	-	-
	6月13日	各所オンラインにて臨時理事会を実施	12	-	-
	6月27日	各所オンラインにて実施	12	-	-
	7月31日	各所オンラインにて実施	12	-	-
	9月12日	各所オンラインにて実施	12	-	-
	10月10日	各所オンラインにて実施	13	-	-
	11月21日	愛知県名古屋市 貸会議室及び、各所オンラインにて実施	13	-	-
	12月19日	東京事務所および各所オンラインにて実施	13	-	-
	1月22日	各所オンラインにて実施	10	-	-
	2月13日	大阪府大阪市 貸会議室及び、各所オンラインにて実施	14	-	-
	3月21日	東京事務所および各所オンラインにて実施	12	-	-
	拡大理事会	8月1日	各所オンラインにて実施	38	-
2月23日		各所オンラインにて実施	43	-	-

#### II その他の事業

実施しなかった。

## 2021年度「特定非営利活動に係る事業」活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入			
個人会費	10,844,000		
法人会費	0	10,844,000	
2 事業収入			
調査・研究事業収入	142,384		
教育・普及事業収入	3,920,000		
支援・助言事業収入	3,019,850		
交流・親睦事業収入	951,092	8,033,326	
3 寄付金収入			
個人寄付金	0		
法人寄付金	0	0	
4 助成金	0	0	
経常収入合計			18,877,326
II 経常支出の部			
1 事業費			
調査・研究事業費	2,323,980		
教育・普及事業費	2,916,335		
支援・助言事業費	3,379,398		
交流・親睦事業費	329,017	8,948,730	
2 管理費			
広報費	105,600		
交通宿泊費	1,399,268		
謝礼等	77,023		
会議費	153,404		
事務消耗品費	148,329		
通信運搬費	158,234		
諸会費	61,100		
雑費	797,823		
資料印刷費	1,022,041		
外部委託料	840,031		
支払手数料	604,614		
賃借料	975,076		
保険料	36,338		
租税公課	193,700	6,572,581	
経常支出合計			15,521,311
経常収支差額			3,356,015
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計	32,475	32,475	32,475
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計	0	0	0
当期収支差額			3,388,490
前期繰越収支差額			41,303,596
次期繰越収支差額			44,692,086



## 2021年度「特定非営利活動に係る事業」会計貸借対照表

2022年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位：円）		
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
現金	0		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(経費)	1,366,647		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(継続会費)	734,186		
普通預金 三菱東京UFJ銀行(新規会費)	602,654		
普通預金 三井住友銀行	8,233,143		
普通預金 三井住友銀行	10,509,131		
普通預金 三井住友銀行	13,131,449		
普通預金 三井住友銀行	10,183,163		
普通預金 楽天銀行	2,530,646		
棚卸資産			
前渡金	0		
未収入金	0		
仮払金	68		
流動資産合計		47,291,087	
2 固定資産			
固定資産合計	0		
減価償却累計額	0		0
3 投資その他の資産			
差入保証金	29,580		
投資その他の資産合計		29,580	
資産合計			47,320,667
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
未払金	2,202,039		
前受金	366,000		
仮受金	22,000		
預り金	38,542		
流動負債合計		2,628,581	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			2,628,581
<b>III 正味財産の部</b>			
前期繰越正味財産		41,303,596	
当期正味財産増加額		3,388,490	
正味財産合計			44,692,086
負債及び正味財産合計			47,320,667

## 2021年度「その他の事業」会計貸借対照表

2022年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	0		
普通預金	0		
流動資産合計		0	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			0
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		0	
当期正味財産増加額		0	
正味財産合計			0
負債及び正味財産合計			0

## 2021年度「その他の事業」活動計算書

2021年4月1日から2022年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科 目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金収入			
個人会費	0		
法人会費	0	0	
2 事業収入			
物品の斡旋及び販売	0		
役務の提供	0	0	
3 寄付金収入			
個人寄付金	0		
法人寄付金	0	0	
経常収入合計			0
II 経常支出の部			
1 事業費			
物品の斡旋及び販売	0		
役務の提供	0	0	
2 管理費			
管理料等	0		
交通費	0		
事務消耗品	0		
通信費	0	0	
経常支出合計			0
経常収支差額			0
III その他資金収入の部			
その他資金収入合計			0
IV その他資金支出の部			
その他資金支出合計			0
当期収支差額			0
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			0

## 2021年度会計財産目録

2022年3月31日現在

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

科目・摘要	金額 (単位:円)	
<b>I 資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金		
現金 現金手許有高	0	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	1,366,647	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	734,186	
普通預金 三菱東京UFJ銀行西新宿支店	602,654	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	8,233,143	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	10,509,131	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	13,131,449	
普通預金 三井住友銀行渋谷支店	10,183,163	
普通預金 楽天銀行	2,530,646	
棚卸資産	0	
前渡金	0	
未収入金	0	
仮払金 預金源泉税	68	
流動資産合計		47,291,087
2 固定資産		
固定資産	0	
固定資産合計	0	0
3 投資その他の資産		
差入保証金 レンタルスペース	29,580	
資産合計		29,580
		<u>47,320,667</u>
<b>II 負債の部</b>		
1 流動負債		
未払金	2,202,039	
前受金 2022年度セミナー参加費	366,000	
仮受金 セミナー参加費返金予定分	22,000	
預り金 講師謝礼源泉所得税	38,542	
流動負債合計		2,628,581
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		<u>2,628,581</u>
正味財産		<u>44,692,086</u>

令和3年度の事業報告書ならびに貸借対照表、活動計算書、財産目録を提出いたします。

令和4年4月24日

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会  
会長 竹本 記子



### 監査報告書

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会  
会長 竹本 記子 殿

特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、令和3年度（令和3年4月1日から令和4年3月31日まで）の特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会の業務および財産の状況について監査を実施いたしました。

業務については月次の理事会に出席したほか、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討しました。また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保障を得るための手続きを行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に違反する重大な事実はなく、令和3年度の特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会の財産の状況は適正なものと認められます。

令和4年4月24日

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

監事 上井 靖 

監事 足田 恵子 

## 2022年度事業計画書

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファシリテーション協会

### 事業計画のポイント

**2022年度は探究を続ける仲間たちと社会の課題解決に挑み、ファシリテーションの可能性を更に拡げます。**

- ・身の回りの「分断」や「孤立」に埋もれた声を拾い、一步踏み込んだ対話から未来を生み出そう。
- ・現場実践のストーリーを社会に発信し、多様な持ち味を活かすことで繋がりを合おう。

多彩な分野で活動するファシリテーターやファシリテーションに関心のある仲間が集まり、2003年に特定非営利活動法人(NPO)として活動を開始したFAJ。多様な人々が協働しあう自律分散型社会の実現をミッションに掲げ、ファシリテーションの普及と探究を進めながら、社会貢献活動を実践し続けています。

ウィズコロナが長期化する今、私たちは現実をありのままに捉え、リスクを正しく恐れ、しかし、歩みを止めず、ファシリテーターズ・ターミナルを目指して挑戦し続けていきます。

社会では、コロナ禍で浮き彫りになった分断や孤立が問題になっています。しかし、私たちは周囲の分断や孤立の解消や、自らの想いの実現を手助けするものとして、ファシリテーションに可能性を感じているからこそ、日々学び・探究を続けているのではないのでしょうか。

一步踏み込んだ対話による相互理解と共感、より広い視野・より高い視座・多様な視点で物事を捉え判断していくためにも、今まで以上に対話のあり方とやり方の探究をオープンに行っていきます。コミュニケーションが多様化した今は、前提をひっくり返すような新たなファシリテーションの形が生まれる可能性もある、ファシリテーション新世紀なのです。

前提にとらわれず、成果の質を上げるには一人ひとりの多様な素質やモチベーションをさらに活かす工夫も必要です。他者と安心して対立し、互いの違いを尊重しあい、自分の壁を認識し、新しい自分を発見していく。互いが触発しあい、本来の自分を発揮しあえば、世の中に信頼と繋がりの連鎖が生まれるでしょう。

この2年半、いつ終わるともなく続くコロナ禍でも、私たちは活動を続けてきました。私たちが歩みを止めずに邁進できたのは何があったからなのでしょう。来年2023年8月に、FAJは設立20周年を迎えます。今こそ、FAJがこれまでの約20年の活動で培ってきた経験と対話による、知恵と工夫を活かして未来を生み出していましょ。ここから10年後、我々の作り出す対話から見えてくる情景はどのようなものになるのでしょうか。

一緒に未来を描いていきましょう！ ファシリテーションの力を信じて！！

### ■身の回りの「分断」や「孤立」に埋もれた声を拾い、一步踏み込んだ対話から未来を生み出そう。

会員一人ひとりがファシリテーションで何を実現したいのか、想いに耳を傾け合うことから生まれるプロジェクトの種を小さく育てる仕組みについて、具体的に実践する方法を実装しながら検討します。

### ■現場実践のストーリーを社会に発信し、多様な持ち味を活かすことで繋がりを合おう。

私たちFAJの目に見える価値、目に見えない価値は何か。そして私たちならではの世の中への役立ち方を、受け手の想像力を掻き立てるようにFAJ会員のあり方とやり方を言語化し発信することで、社会にインパクトを与えていきます。

以下、重点的に取り組む内容を事業別に記します（括弧内は担当を表します）。

## 1 ファシリテーション技術の確立や新しい技術の開発を目指す調査・研究事業

調査・研究事業では、これまで20年間の定例会等で深めてきたファシリテーションの知見を活かして、実践力を高め相互研鑽の場をつくっていきます。

### 1) 実践力の相互研鑽の場作りの推進(理事会、各支部運営委員会、プロジェクト)

- アフターコロナ、ウィズコロナでの開催方法、対話のあり方・やり方をオープンに多面的に検討を進めます。
- コロナ禍で学んだオンライン等の知見を活用し、地域や環境を越え、拠点同士や団体間のコラボレーション等を進め、20年で培った知恵と工夫を出す企画を打ち出します。

### 2) ファシリテーションの本質を探究(理事会、イベント実行委員会)

- 「議論を問い直す」をコンセプトに、東京で全国イベント「ファシリテーション・サミット」をオンラインを活用し実施します。

## 2 ファシリテーター養成や実践方法の普及を目指す教育・普及事業

教育・普及事業では、コロナ禍でも公開セミナーを広く展開していきます。

### 1) 従来の公開セミナーの継続強化(公開セミナー委員会)

- ファシリテーションの普及のため、状況を踏まえながら、コロナ感染症対策版、従来版ファシリテーション基礎講座を全国各地で開催します。
- 会場での開催については、運営ガイドラインを随時アップデートする等、安心して受講できる取り組みを行いながら運営します。
- 今後も質の高いセミナーを継続的に開催できるよう、講師の増員、レベルアップを推進するとともに、セミナーコンテンツを継続的に改良します。

### 2) 公開セミナーの新たな展開の検討(公開セミナー委員会)

- ファシリテーション基礎講座(オンライン開催)を本格実施し、9クラス実施予定です。また集客状況や受講者の評価も踏まえながら、来年度以降の開催規模(地域限定・回数)の拡大を目指し、検討を行います。
- ファシリテーション実践講座(仮)については、コロナ収束後いつでもリリースができるように準備を整えます。
- FAJならではのフェローが持つ優れたファシリテーションの知見を活かすことで、教育・普及事業の軸である基礎講座のコンテンツをより効果的に伝えていくための「特別講座」の開催を検討します。今年度はパイロットを開催し、来年度の本格実施を目指します。

## 3 各種団体におけるファシリテーションの活用をサポートする支援・助言事業

社会課題の解決や新しい社会の創造に関わる様々な個人・団体の要請に対して、誠実に向き合い、ファシリテーションにとどまらない支援を行います。

### 1) 社会からの多様な要請に対する支援の充実(ファシリテーションサポート委員会)

- よろず相談(丁寧なヒアリング)をより強化します。多様なニーズに対応するため、チームで対応すること等でコーディネーション力を高めます。また、ファシリテーションを活用した支援は多くの会員の協力も得て実施します。
- 社会から要請される多様なニーズに対して、積極的に関わっていけるような支援のあり方を具体的に議論していきます。ファシリテーションを必要としている分野、組織、団体についてニーズ分析し、社会課題に対してFAJのノウハウやリソースを使ってどのような支援ができるかを引き続き検討します。
- FAJ内への情報発信に加え、FAJ公式ホームページやSNS等の媒体を活用してFAJ外とのコンタクトを増やすような仕組み作りを模索していきます。

### 2) 災害復興、防災・減災に関するファシリテーションを通じた支援(災害復興委員会)

- 災害復興、防災・減災の分野でファシリテーションを活用した支援を行います。
- 災害復興、防災活動における話し合い支援の人材育成・発掘をするとともに、昨年度つくったコミュニティを継続し、学び合いの場をつくります。
- FAJ内での理解を醸成するために、定例会や報告会を実施し、災害復興や防災活動の意義を深める機会を作ります。

## 4 ファシリテーターや関連団体間の親睦を図る交流・親睦事業

交流・親睦事業では、各種イベントや関連団体との交流を通じて、FAJ内外のつながりをさらに深めます。

- 1) **地域イベントを開催(各支部運営委員会、地域イベント実行委員会)**
  - 各支部におけるイベントの開催により、地域に根差した交流を深めます。さらに地域を跨いだイベントも開催することで、地域内外を通じてより開かれた交流を図り、ファシリテーションの普及と探究を一層促進します。
- 2) **国境や文化・言語を越えてつながる交流・親睦活動の強化(グローバルファシリテーション推進委員会)**
  - IAF 大会への FAJ 会員派遣や海外ファシリテーターとの交流を通じて、FAJ のグローバル活動の幅を拡げ、強化します。併せて FAJ 内外に知見を提供します。
  - グローバル社会に向けたファシリテーションへの活動の可能性をさらに拡げ、様々な実践に移していきます。
- 3) **他団体との連携強化(理事会、各支部運営委員会)**
  - IAF をはじめとするファシリテーションの普及・研鑽に関わる団体と、パートナーとして協働を進めます。
  - 各分野で活動している外部団体とファシリテーションを軸にコラボレーションを進めます。また、FAJ 外部のファシリテーターとの連携を深めます。
  - 2025 年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーとして他団体の活動支援や他団体との共創の取り組みを検討し、活動を本格的にスタートします。

## 5 広報・コミュニケーション活動

2023 年の FAJ 設立 20 周年に向けて、新しいファシリテーションの可能性を意識して、FAJ だからこそできる活動について情報発信します。

- 1) **FAJ 内への情報発信の強化(理事会、広報委員会)**
  - FAJ20 周年に向けて、フェローの声等も積極的に取り上げ、FAJ のあゆみをふりかえります。また、ニューズレターのコンテンツの充実を進めます。
  - 会員間の活発なコミュニケーションが促進されるホームページ、ニューズレター、SNS 等のメディア活用を検討します。また、会員間のコミュニケーション促進のため、広報委員会としてイベントを開催します。
- 2) **FAJ 外への情報発信の強化(広報委員会)**
  - 入会希望者やファシリテーションに関心のある人たちがファシリテーションの学びと実践を進めるために活用しやすいホームページの在り方や構成を検討し、発信します。
  - FAJ を知ってもらうためのイベントを開催します。
- 3) **情報発信に関わる運営の強化(広報委員会)**
  - ホームページの継続的な改善、タイムリーな更新作業を継続します。
  - 今後、いろいろな情報を発信していくためのリスク管理を強化します。

## 6 ミッション及び組織運営に関わる活動

コロナ禍において FAJ が向き合う変化を踏まえつつ、ファシリテーターズ・ターミナルに向けた活動の歩みを止めることなく進めます。また、時代の転換期にふさわしいビジョンの策定を行います。さらに、法人として持続可能な組織づくりに取り組みます。

- 1) **組織のあり方と運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)**
  - Why ステートメントから実際のビジョンを紡ぎ出していくための「ビジョンワーク第二弾」を実施し、2023 年 1 月に新ビジョンを発表します。
  - 「協働促進プログラム」の試行プロジェクトを実施し「会員同士の協働」および「会員と他団体、地域・社会との協働」を産み出す仕組みを作ります。
- 2) **組織運営のやり方の検討(理事会、各拠点、事務局)**
  - 安定的な組織運営のために、お互いに支え合いながら活動できるように、引き続き運営のやり方を検討・進化させていきます。
  - 会計業務の外注に伴い、着実な運用を目指して、各拠点に向けた説明会を開催します。
  - 事業収益への影響を資金調達だけに着目せず、会員減少、コロナ禍、オンラインの普及等の現状に対応した収支構造を見直します。
  - 各拠点が活動しやすい環境にするため、拠点間及び理事会とのコミュニケーションを促進する場を継続します。
- 3) **拠点運営のサポートの充実とデジタル化の推進(デジタル推進委員会)**
  - 運営の効率化をめざし、各拠点のデジタル化の支援を通じて、網羅的に関わります。
- 4) **各種制度改正への対応(理事会、事務局)**
  - FAJ としての活動を維持・向上させるために、NPO 法人に関連する各種の制度改正への対応を行います。

## FAJビジョン 3.0

### タテ型社会の常識からヨコ型社会の知恵へ (社会の視点・ファシリテーションの視点)

- 社会を構成する多くの人が、**対話と議論の手法や知恵**を自ら学び活用し、協働している。
- ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合いともに歩む**ヨコ型社会**を目指して変革をはじめている。

### 強い意志を持ったイノベーターのネットワークへ (ファシリテーターの視点・FAJの視点)

- 社会や組織の課題を解決したいと願う挑戦的な**イノベーター**が、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
- 自覚と責任あるファシリテーターの**ネットワーク型組織**が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。

## ビジョンを実現するためのFAJの行動

- ①社会を構成する多くの人が、対話と議論の手法や知恵を自ら学び活用し、協働している。
  - FAJは、個々の思いを機敏に具現化して、着実にイノベーションへとつなげる集合知を創生する。
  - FAJは、課題解決や変革を必要としている組織・コミュニティにファシリテーションのスキルとマインドを届ける。
- ②ファシリテーションが、あらゆる地域・分野の現場で、その存在を知られ、社会全体が、上意下達のタテ型社会の常識から、多様な考えやあり方を認め合い、ともに歩むヨコ型社会を目指して変革をはじめている。
  - FAJは、社会に深く根を張る上意下達型・ヒエラルキー型の思考様式と行動様式を打ち破り、多様な人々が自律的につながるネットワーク型組織の成功事例を、身をもって実現する。
  - ファシリテーションが生んだ成功事例を集め、その有用性や応用可能性、社会に与えるインパクトをアピールする。
- ③組織や社会の課題を解決したいと願う挑戦的なイノベーターが、ファシリテーションによって現場で変革を起こしている。
  - FAJに集まる野心的なファシリテーターが、国際的紛争や新しい分野など、それぞれの現場に向き合って耕し、その課題解決に挑戦し、成果を上げている。
  - FAJに集まるファシリテーターが、ヨコ型社会における新しいリーダーシップに挑戦している。
- ④自覚と責任あるファシリテーターのネットワーク型組織が、臨機応変にその実践とイノベーションを支えている。
  - FAJは、地域や特定分野での実践的な活動を支援する拠点やプロジェクトを臨機応変に立ち上げ、自覚と責任を持って変革を進める人々を輩出し、それらの場をつなぐネットワークのハブとなる。
  - FAJは、ファシリテーションに関する知識と経験を深めるため、研究と試行を重ね、地域や分野、世代を超えて実践者が刺激し合う相互研鑽の場となる。

## ミッション

ファシリテーションの普及を通じて、ビジネス分野においては、生産性・モチベーション・リーダーシップ力を向上させ、社会的な分野では、市民活動・地域経営・国際交流の質を高め、教育の分野では、多面的な視点を持つ人材を育成していくことをめざしています。

ビギナーからプロフェッショナルまで、ビジネス・まちづくり・NPO・教育・環境・医療・福祉など、多彩な分野で活躍するファシリテーターが集まり、多様な人々が協働しあう自律分散型社会の発展をめざして、幅広い活動を展開していきます。

以下、計画の詳細について記載します。

## 【A】特定非営利活動にかかる事業

### 1. 調査・研究事業

事業内容	実施時期	実施場所	従業者	受益対象者
北海道支部 定例会	今年度は「更に楽しく学ぶ」をモットーに、他支部、他団体の協働で学びを企画運営することで、ファシリテーションの可能性を探求していきます。			
	通年 (11回)	北海道	33名 (3名×11回)	会員330名、一般33名 (会員30名＋一般3名)×11回
東北支部 定例会	オンライン、ハイブリッド、リアル開催も試みながらこれまでの宮城中心から他県開催なども視野に入れ東北エリアに普及活動の可能性をひろげる。さまざまな人が参加でき多様な視点で学びあえるような「みんなの東北支部」を目指す。			
	通年 (11回)	宮城、山形、青森 等	44名 (4名×11回)	会員180名、一般60名 年間12回
東京支部 定例会	調査定例会・研究定例会の2区分で、FAJ 外部との共同企画や、自己研鑽を促進する多くの機会を提供していく。多様な視点の誘起と共に、今の時代にあうファシリテーションの探求や学びあい研鑽する場として図りたい。			
	通年 (11回)	東京・神奈川・千 葉・埼玉・群馬等	158名 (18名×6回) (10名×5回)	会員825名、一般105名 (会員75名＋一般5名)×6回 (会員75名＋一般15名)×5回
中部支部 定例会	4月に臨時的特別運営委員会を開き、「運営メンバー一人ひとりが自己価値を自覚しながら、お互いがオープンで、個々の能力と自発的な行動で中部支部を作り上げていく！」ことが大事であることを確認しあいました。中部支部はこの方針に沿った活動をしていきます！			
	通年 (11回)	愛知	66名 (6名×11回)	会員440名、一般77名 (会員40名＋一般7名)×11回
関西支部 定例会	「つながり」が生み出す「核心×革新」の未知なる進化をめざし、ファシリテーションを探求する場を会員をはじめとするさまざまな方々とともに作りあげる。外部団体や他支部・地域サロンとのコラボ拡大にもチャレンジする。			
	通年 (11回)	大阪・京都・兵庫	132名 (12名×11回)	会員550名、一般88名 (会員50名＋一般8名)×11回
中国支部 定例会	アクセルを少し緩め健全な支部運営「瀬戸内サイクル」を整えます。活動テーマは「リアル」。リアル開催も織り交ぜ、定例会の枠を越え、リアルなテーマで地域や他団体との協働を模索し、繋がりをじっくり育てていきます。			
	通年 (7回)	オンライン/広島 他	35名 (5名×7回)	会員105名、一般21名 (会員15名＋一般3名)×7回
九州支部 定例会	引き続き九州内のサロンなどファシリテーション拠点との連携を深めつつ、九州内の拠点が無い県での交流を行う。また、他支部との交流も行い、支部運営委員会スタッフのつながりや学びが広がるようにしたい。			
	通年 (11回)	福岡	33名 (3名×11回)	会員330名、一般66名 (会員30名＋一般6名)×11回
サロンサポート	—	地域型12カ所 テーマ型5カ所	—	—

### 2. 教育・普及事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
公開セミナー	通年 (38クラス)	東京・大阪・愛知・ 広島・福岡等	190名 (5名×38クラス)	会員304名、一般456名 (会員8名＋一般12名)×38クラス

### 3. 支援・助言事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
ファシリテーション サポート委員会	通年 (30回)	全国	60名 (2名×30回)	一般900名 (一般30名×30回)
災害復興委員会	通年 (30回)	全国	60名 (2名×30回)	一般900名 (30名×30回)

### 4. 交流・親睦事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
グローバル ファシリテーション 推進委員会	未定	未定	5名	不特定多数
地域イベント	未定	札幌	—	—
	未定	仙台	—	—
	未定	東京	—	—
	未定	名古屋	—	—
	未定	大阪	—	—
	未定	広島	—	—
	未定	福岡	—	—

### 5. その他の総合的な事業

事業内容	実施日時	実施場所	従業者	受益対象者
広報委員会				
ニュースレター	3回	全国	24名 (8名×3回)	会員1,200名
ウェブサイト	通年	全国	20名	不特定多数
メーリングリスト等	通年	全国	20名	会員1,200名

### 【B】その他の事業

実施しません。

2022年度「特定非営利活動に係る事業」活動予算書

単位＝円

今年度もコロナ禍は続くと思えますが、ウイズコロナの時代を見据えた対面活動の推進やハイブリッド開催への挑戦など、ファンリテーションの可能性を広げる歩みを先へ進めるための予算としています。さらに、設立から20年を迎えるFAJの持続的な発展に向けて、組織内部を強化するための投資を行っていきます。

2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人 日本ファンリテーション協会

科目	2022年度予算	予算内訳											
		事務局	北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州	公開セミナー	サミット	ファンサポ	災害復興
<b>I 収入の部</b>													
1 会費収入													
個人会費収入	11,500,000	11,500,000											
法人会費収入													
	11,500,000	11,500,000											
2 事業収入													
調査・研究事業収入	1,926,500			49,500	180,000	24,000	75,000	18,000	21,000		1,559,000		
教育・普及事業収入	12,324,000									12,324,000			
支援・助言事業収入	5,166,000										3,050,000	2,116,000	
交流・親睦事業収入	2,174,500		160,000	228,500	500,000	226,000	750,000	60,000	250,000				
	21,591,000		160,000	278,000	680,000	250,000	825,000	78,000	271,000	12,324,000	1,559,000	3,050,000	2,116,000
3 寄付金収入													
個人寄付金													
法人寄付金													
4 助成金等収入													
民間助成金													
収入合計	33,091,000	11,500,000	160,000	278,000	680,000	250,000	825,000	78,000	271,000	12,324,000	1,559,000	3,050,000	2,116,000
<b>II 支出の部</b>													
1 事業費													
調査・研究事業支出			北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州		サミット	サロン	プロジェクト
会場使用料	3,405,070		231,200	130,000	950,000	345,000	470,000	120,000	235,000		733,870	190,000	
事務消耗品費	599,000		20,000	90,000	130,000	40,000	100,000	10,000	130,000		60,000	19,000	
交通宿泊費	2,343,000		480,000	160,000	120,000	200,000	233,000	180,000	85,000		120,000	765,000	
謝礼等	1,846,000		168,000	168,000	550,000	200,000	350,000	60,000	50,000		300,000		
印刷費	184,000		15,000	22,000	45,000	20,000	15,000	10,000	12,000		45,000		
会議費	400,000		50,000	30,000	50,000	20,000	100,000	30,000	100,000		20,000		
雑費	867,500		30,000	25,000	240,000	40,000	120,000	120,000	12,000		280,500		
外部委託料	130,000				120,000	10,000							
研究開発費	105,000				75,000								30,000
	9,879,570		994,200	625,000	2,280,000	875,000	1,388,000	530,000	624,000		1,559,370	974,000	30,000
教育・普及事業支出										公開セミナー	サロン・プロジェクト詳細		
会場使用料	1,752,000									1,752,000	【サロン：(地域型)12+1(新設予備) / テーマ型：3+2(～3年目)+1(新設予備)】		
事務消耗品費	188,000									188,000	【会場使用料(各1万*19)、事務消耗品費(各0.1万*19、交通宿泊費(地域型、テーマ型：各3万*15、沖繩：4.5万、テーマ型(～3年目、新設予備)：9万*3)】		
交通宿泊費	2,265,000									2,265,000	【プロジェクト：1(新設予備)】研究開発費：3万		
謝礼等	4,232,060									4,232,060			
印刷費	406,000									406,000			
会議費	190,000									190,000			
雑費	98,000									98,000			
	9,131,060									9,131,060			
支援・助言事業支出												ファンサポ	災害復興
会場使用料	40,000											30,000	10,000
事務消耗品費	32,000											22,000	10,000
交通宿泊費	2,130,000											670,000	1,460,000
謝礼等	2,500,000											1,320,000	1,180,000
印刷費	30,000												30,000
会議費	3,000												3,000
雑費	238,000											2,000	236,000
	4,973,000											2,044,000	2,929,000
交流・親睦事業支出			北海道	東北	東京	中部	関西	中国	九州	グローバル			
会場使用料	995,000		100,000	65,000	230,000	100,000	350,000	50,000	100,000				
事務消耗品費	130,000		10,000	10,000	30,000	10,000	35,000	10,000	25,000				
交通宿泊費	1,080,000		160,000	50,000	50,000	60,000	100,000	60,000	100,000	500,000			
謝礼等	649,000		56,000	56,000	56,000	56,000	115,000	60,000	50,000	200,000			
印刷費	146,000		14,000	40,000	30,000	12,000	30,000	10,000	10,000				
会議費	101,000		5,000	28,000	24,000	10,000	20,000	10,000	4,000				
雑費	304,000		15,000	20,000	50,000	60,000	100,000	15,000	4,000	40,000			
外部委託料	163,000		55,000		30,000	18,000		10,000	50,000				
	3,568,000		415,000	269,000	500,000	326,000	750,000	225,000	343,000	740,000			
事業予備費	2,000,000	2,000,000											
事業費計	29,551,630	2,000,000	1,409,200	894,000	2,780,000	1,201,000	2,138,000	755,000	967,000	9,871,060	1,559,370	3,018,000	2,959,000
2 管理費													
		事務局	デジタル	広報	協働促進	事務局詳細							
広報費	468,000	200,000	168,000	100,000		パンフ改訂・印刷20万							
交通宿泊費	6,140,000	4,500,000	300,000	620,000	720,000	(理事会)通常30万×10、拡大40万×2、支部・サロン訪問30万、(事務局)リアルMTG20万×2							
謝礼等						(理事会)通常5万×6、拡大10万×2、役員合宿20万×2							
会議費	1,010,000	900,000	30,000	20,000	60,000	名刺代4万、その他備品消耗品1万							
事務消耗品費	50,000	50,000				郵便6万、電話2.6万、Zoom使用料1.5万							
通信運搬費	101,000	101,000				JVOD5万、シース3万、日本NPOセンター1万							
諸会費	90,000	90,000											
雑費	547,000		52,000	495,000									
資料印刷費	675,000	75,000		600,000		封筒7.5万							
総会関係費用	700,000	700,000				会場費25万、送料(発送作業含)25万、資料等印刷20万							
外部委託料	3,973,500	2,747,500	426,000	800,000		会計事務105.6万、税務52.8万、登記15万、会員管理41.35万、役員研修60万							
支払手数料	500,000	500,000				振込手数料25万、EB使用料5万(2.5万×2)、会費払込手数料20万							
賃賃料	980,000	980,000				家賃66万(5.5万×12か月)、倉庫(中部、関西)28.6万、セミナー倉庫代3万他							
租税公課等	330,000	330,000				法人税均等割7万、消費税26万							
保険料等	55,000	55,000				損害保険5.5万							
管理費計	15,619,500	11,228,500	976,000	2,635,000	780,000								
支出合計	45,171,130												
当期収支差額	-12,080,130												
前期繰越収支差額	44,692,086												
次期繰越収支差額	32,611,956												

<第三号議案> 2022年度役員を選任について

(普通決議:総会に出席した正会員の過半数による議決)

1. 2022年度の理事候補者 (敬称略、再任、新任で50音順)

再任 小栗 由香  
再任 斉藤 俊哉  
再任 竹本 記子  
再任 津田 壮彦  
再任 水江 泰資  
再任 本宮 大輔  
再任 山根 弘和

新任 柿原 寿人  
新任 河野 恵  
新任 小堀 誠也  
新任 高橋 淳子

2. 2022年度の監事候補者 (敬称略、再任、新任で50音順)

再任 疋田 恵子  
新任 岡田 純子